

推薦のことば

医学，特に臨床医学で，長い間マイナーな専門分野としての地位に甘んじてきた遺伝医学は，1980年代以降に多くの単一遺伝子疾患の原因遺伝子が明らかにされ，さらに21世紀になって遺伝子解析技術が驚異的なペースで進歩することによって，今や医療のあらゆる領域で不可欠な情報，すべての医療者にとって習得すべき基本的知識となりました。それは，わが国の医学部学生が卒業前に習得すべき内容をまとめた「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の平成28年度の改訂で，新たに「遺伝医療・ゲノム医療」という項目が設けられたことでも明らかです。

しかしながらこうした急速な進歩と広まりのかたわらで，わが国の遺伝医学教育は，教える人材が足りない，教える時間が確保できない，良い日本語の教科書がない，という「ないないづくし」の状態が続いていました。全国に80あまりを数える医学部・医科大学でも，臨床遺伝学の講座を擁する大学はまだ少数にすぎません。

こうした中であって，長らく遺伝医学の世界でともに学び，個人的に深く敬愛している渡邊淳先生が，このたびかくもすばらしい遺伝医学のテキストを執筆されました。本書は分子生物学から社会との関係まで取り上げられた，まさに遺伝医学のエンサイクロペディアであり，先生の知識と才能と熱意の結晶です。今後長きにわたってわが国の遺伝医学の標準的入門書，いやバイブルとなることでしょう。このような本を手で遺伝医学を学ぶことができる，これからの日本の若者はとても幸運です。私自身も本書を通読し，あらためて遺伝医学の面白さを再認識させていただきました。文章は渡邊先生のお人柄をあらわすように丁寧かつ穏やかで，まるで家庭教師にやさしく指導を受けているような感覚を覚えます。学問分野を問わず，よい教科書は読んでいるだけでも面白いですが，本書はまさにその最たるものと言えます。

本書が医学を志す多くの学生や医療関係者に読まれ，一人でも多くの若者が遺伝医学に関心を持ち，ひいては日本の遺伝医療の普及と発展を通じて，多くの人たちを支える力となってくれることを願ってやみません。

2017年3月

札幌医科大学医学部遺伝医学 教授

櫻井晃洋